

たたかえ！ ヒガシヤマン

round47/48

今回の
敵キャラ

グッジョブくん

準備
できました。



【必殺技】ペットボトルロケットの準備

ペットボトルロケットをテキパキ準備し、発射は他の人をお願いする。発射をお願いされた人はずぶ濡れになる。

【考案者】前 瑞紀

京都市芸術大学で勉強中。
ペットボトルロケット飛ばしてみたいです。



©大畑栄里

必殺!!
疫病退散!!
退散!!

ヒガシヤマンの返し技

【必殺!! 疫病退散!!】

「そう、おじさん仕事ないの」と少年は言った。隣では、5年間暇をもてあまし続ける黄色いヒーローが海に向かって釣り糸を垂らしている。ヒガシヤマンだ。「うん。でもさ、おじさんに仕事がないってことは、世の中が平和なんだよ。きっといいことさ」少年は組み立てていたペットボトルロケットを指し、「できた! ねえ、おじさんが発射ボタンを押してくれる? きっと元気が出るよ」とヒガシヤマンを促した。「いいとも」と快く応じボタンを押すと、なんとヒガシヤマンがびしょ濡れに! 「あはははは!! 引っかかった引っかかった!!」高笑いしながら走り去っていく少年。ヒガシヤマンは「必殺!! 疫病退散!!」で海の妖怪に変身し、濡れても気にならない体でその後ろ姿を見送った。

東山青少年活動センターにひそかに存在するキャラクター・ヒガシヤマン。彼は喜んでいる! 「敵が... 敵が現れた...!! 全然敵っばくなかったけど...!!」5年ぶりにヒーローとしての仕事を果たし、嬉しさのあまり涙を流すヒガシヤマン。「みんな! コロナには気をつけて!!」ありがとうヒガシヤマン。短い間だけど、がんばろうヒガシヤマン!

文：筒井加寿子

ヒガシ

VOL.
47/48

ガシ

2020 AUTUMN

もくじ

- 01・たたかえ！ヒガシヤマン
- 02・もくじ
- 03・復刻版 ヒガシガシ
- 05・東山 schedule
- 09・特集 東山再発見
- 13・ステージサポートプラン
- 15・Higashiyama Youth
- 17・Q&Aコーナー
- 18・Work Shop ななめよみ

空腹を充たすために食べるスナック菓子のように、東山の情報もかじってほしい。ヒガシ(干菓子)のイメージからくる季節感や彩りも添えて。ヒガシガシは、そんな情報誌です。



イラスト 安達 誠【かもさん同盟】

2004(Vol.1~4)



2005(Vol.5~8)



2006(Vol.9~12)



2007 (Vol.13~16)



2008 (Vol.17~20)



2009 (Vol.21~24)



ヒガシガシ増刊号に寄せて ～これまでのあゆみ～

東山青少年活動センターは何をしているところ？センターを使って自主活動している若者はどんなことをしているの？東山区総合庁舎に移転して3年目を迎えた2004年、たくさんの方々に知ってもらいたいと、2人の青少年とともに取り組み始めました。

東山センターのキャラクターであるヒガシヤマンが、個性豊かな敵キャラに立ち向かう「たたかえ!ヒガシヤマン」のコーナーにはじまり、東山区やセンターで活動する若者に注目したインタビュー記事「東山再発見」と「Higashiyama Youth」、センターのイベントや事業スケジュール情報やワークショップの参加報告「ワークショップななめ読み」、ヒガシガシ作成ボランティアによる企画ページなど...読者にとっては毎度おなじみのコーナーがぎゅっと詰まった、まさに「東山発!活動まるごと情報誌」です。

ボランティアも徐々に増え、一つ一つ印刷・製本を行う過程にも、ものづくりの姿勢や大切に読んでもらいたいという思いが込められていました。1回に2,000部を作ることは大変さも伴いましたが、それ以上に完成した時の達成感をみんなで共有できることが嬉しくもありました。

2010(Vol.25~28)



2020

取り組み始めて8年目の 2011 年からは、バックナンバーがほしいという問い合わせが、ずいぶん増えてきたこともあり、Web 上でバックナンバーを見ていただけるようにしました。毎月 14 日はヒガシガシの日ということで、1号ずつアップしていきました。

年に4回、春号・夏号・秋号・冬号の発行を 2015 年の夏まで続け、Vol.46 をもっていったん終刊しましたが、これまでの発行数は 46 号。あと少しでちょうど 50 号。……ということで、Vol.47&48 と Vol.49&50 の合併号にして、50 周年の記念に 50 号まで発行することになりました。2号分ということで、ほんの少しだけ、ページ数を増やして増刊号にしています。

このサイズ感が、何とも懐かしい……。

フリーペーパーとして街中の様々なショップにも置かせていただき、そこで手に取った方が来館していただいたり、プログラムに参加してくださったりと、多くの出会いも生まれたヒガシガシ。復活に際し、創刊号から関わってくれていた若者が、今回も協力してくれたことにも縁を感じました。久しぶりに手にとった方々も、また、初めてご覧になる方も、どうぞ最後までお楽しみください。



2015(Vol.45~46)



2014(Vol.41~44)



2013(Vol.37~40)



2011(Vol.29~32)



2012(Vol.33~36)



東山schedule 2020



	10月	11月	12月
1	木	日	火 ②
2	金	月	水
3	土	火 ①	木
4	日	水	金 ②
5	月	木	土
6	火	金 ①	日 ③
7	水	土 ③	月
8	木	日	火 ②
9	金	月	水
10	土	火 ①	木
11	日	水	金 ②
12	月	木	土
13	火	金 ①②	日 ②
14	水	土	月
15	木	日	火 ②
16	金	月	水
17	土	火	木
18	日	水	金 ②
19	月	木	土
20	火	金	日 ③
21	水	土	月
22	木	日	火 ②
23	金	月	水
24	土	火	木
25	日	水	金 ②
26	月	木	土
27	火 ①	金 ②	日
28	水	土	月
29	木	日	火
30	金	月	水
31	土		木

■ は休館日です

① 「じぶんみがきダンス」

センターでは、就労支援の一環として、京都若者サポートステーションと連携し、誰もができるダンスを楽しみながら、ひととの簡単な共同創作の体験から、自己と向き合う力を高め、自己表現力やコミュニケーションスキルを培うことで、就労準備に役立つプログラムを用意しました。就活準備中・就活中の大学生も参加が可能です。自分やひとと向き合う時間を通して、就職活動や「はたらく」ことについて、からだを動かしながら、一緒に考えてみませんか？

【日 時】 1日コース（おためし）：10月27日（火）14:00～16:00
4日コース：11月3日（火・祝）、6日（金）、10日（火）、13日（金）

各回 14:00～17:00

【場 所】 京都市東山青少年活動センター

（東山区清水五丁目130-6 東山区総合庁舎北館2F）

【対 象】 就職活動中の大学生や、現在働いていない15歳～49歳までの方（※ダンス経験は必要ありません）

【参加費】 無料

【定 員】 12名

【講 師】 ダンスユニットセレノグラフィカ

隅地菜歩（振付家・ダンサー） / 阿比留修一（ダンサー）

② 「DS1（ダンススタディーズ1）」

ダンス創作を通して、自分のからだを知ることから生まれる新たな発見、人との共同によって様々な価値観に出会うことで、これからの自分づくりに役立つヒントを得ることができます。また、集中的な創作活動は社会人基礎力を養う場にもなります。

初めて出会った仲間とお互いのことを少しずつ知り合いながら、4か月をかけて、創作ダンスの作品を創りあげ、最後に修了（舞台）公演をします。

新しいことに挑戦してみたい人、からだを動かしてみたい人、自分の殻

を破りたい人、表現をみがきたい人、ダンス作品を創ってみたい人、違う自分に出会いたい人、ダンスで自己表現したい人、いろんな人と出会いたい人。この機会にぜひ参加をお考えください。

【日時】2020年11月27日(金)～2021年3月12日(金)
毎週火・金曜日 18:00～21:00 全30回
及び12月・2月は第2日曜日 15:00～18:00、
ただし、1月19日～2月2日の週は毎週火曜日のみ
※2月23日(火)は祝日のため、15:00～18:00
※3月1日(月)・3月4日(木) 18:00～21:00
(講座時間以外に自主練習をする可能性があります)

※説明会:11月13日(金) 19:00～20:30
説明会に参加希望の方は、事前にお申し込みください。
個別説明会をご希望の方はお問い合わせください

※リハーサル:3月5日(金)
※公演日:3月6日(土)～7日(日)
※最終オリエンテーション:3月12日(金)

【参加対象】京都市にお住まいか、京都市内に勤め先・通学先のある中学生～30歳までの方で、ダンス経験は問いません。初心者の方大歓迎!

【募集定員】10名

【参加費】1回700円

【ナビゲーター】大谷悠(ダンサー)・遠藤僚之介(ダンサー)

【申込方法】直接来館または電話(075-541-0619)かE-mail(higashiyama@ys-kyoto.org)でお申し込みください。

【申込締切】11月17日(火)



3 「東山アトスペース」

知的障がいのある青少年の表現活動プログラムです。絵画や木工・ペーパークラフトなど、幅広い工作を行います。それぞれの“好き”や“楽しみ”をナビゲーターやボランティアスタッフとともに創りあげてみませんか。少しずつ、のんびりと思いを形にしていきましょう。

●クール制プログラム

全3回、継続参加をしていただくプログラムです。
初めての方は、おためしプログラムにご参加ください。

※ご参加は、第1クールに参加されていない方を優先させていただきます。定員に空きがある場合は、第1クールに参加された方もご参加いただけます。(☆新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、中止する場合があります。予めご了承ください。)

第2クール日程(いずれも日曜日)

Aコース:12月6日・令和3年1月10日・2月7日

Bコース:12月20日・令和3年1月24日・2月21日

【時間】13時30分～15時30分

【参加費】1回1,000円(全3回)

【定員】各コース8名

【対象】中学生年齢から30歳までの知的な障がいがあり、京都市内にお住まいか、通勤・通学されている方で、お一人で来館できる、または、保護者やヘルパーさんが送迎できる方。

【募集期間】11月10日(火)21:00まで
(定員を超えた場合は抽選)

電話(075-541-0619)、または、来館にて受付しています。
希望されるクールとコース、または、プログラムを選んでお申し込みください。

おためしプログラム

【日時】11月7日(土)13時30分～15時30分

【参加費】500円

【定員】8名

【対象】上記対象者と同じ

【募集】11月5日(金)21:00まで先着順受付

4 「SHARE CRAFT BASE」

表現やアートを手がかりに活動する青少年の活動の場づくりや、社会との接点をつむぐ拠点として、文化創造活動を担う若者たちを応援しています。

👉 こんな方々に最適！

- ・作品の制作発表前に創作に集中したい！
 - ・他の若手アーティストや作家から刺激を受けたい！
- そんな青少年のためのアトリエ活動の場、無料で提供します。

👉 こんなサポートをしています！

○陶芸台もしくは木工台の長期無料貸し出し
(シェアアトリエタイプ)

○工具や工作道具の貸し出し

*創作物に必要な材料や工作室にない
工具などは各自でご用意ください

○荷物を保管できるロッカーの無料貸し出し

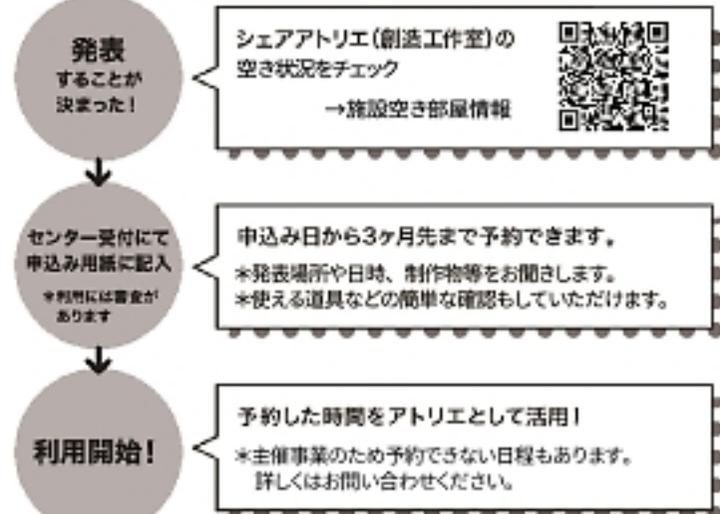
○展示など発信の機会の相談も受付けています



↑設備一覧

👉 対象は

- ・京都市内に在住もしくは、通学・通勤している、13～30歳までの青少年、または青少年が概ね8割以上のグループ。
- ・個展や展覧会・コンテスト・卒業制作発表等の予定があり、その発表に向けた創作であること。



5 ロビープログラム「EP(エピ)」

ロビーを使い、居心地の良い空間づくりや、ロビーアンケートなど交流プログラムを実施しています。センターのテーマでもある「アート」を使った空間づくりなど、楽しく過ごすことができるロビーを目指しています。

↓机のパーティションに装飾中。



↓↓ 例えばこんなことしてます! ↓↓

■ロビーアンケート

季節に沿った内容や巷で話題になっていることなどを取り上げ、毎月テーマを変えてロビーにて実施しています。

みなさんの回答は、ロビーに掲示していますので、部屋の待ち時間やロビーで過ごす時など、ふらっと立ち寄ってみてください。

【これまでのアンケートテーマ】

- みんなのおうちじかん
- 訪れてみたい名所は？
- 叶えたい夢(七夕にちなんで)
- ハロウィンのお菓子と言えば? etc...



プログラムの企画や空間づくりをお手伝いしていただくボランティアも募集中! 月4回程度で活動中です。
活動日や時間など、詳しくはお問い合わせください。

6 「開館 50 周年記念事業」

京都市東山青年の家(勤労青少年ホーム)は、昭和46年(1971年)1月15日(成人の日)に行われた竣工式の後、2月1日にオープンしました。当時の建物は東大路七条を少し上った区役所の裏手(西側)にありましたが、2001年、現在の総合庁舎北館の2階にリニューアル・オープン、名称も青少年活動センターに変わりましたが、2021年の2月に50周年を迎えます(旧庁舎30年、新庁舎になって20年)。ちなみに、旧青年の家の建物は、現在も、国立博物館の研究棟として使われています。



開館前の東山青年の家 昭和46年(1971年)1月頃

① 思い出の写真を集めています!

旧青年の家の外観写真、建物内の写真、講習会や行事の風景など、思い出の写真を簡単なコメントと共にお願いします。もちろん新庁舎に関する写真も大歓迎です。どしどしお寄せください!!

○応募方法

- あなたの思い出の写真の画像をメールに添付してお送りください(higashiyama@ys-kyoto.org ※写真はお一人様3枚までとさせていただきます)。
- 写真の内容は、旧庁舎に関するものでも新庁舎に関するものでも、どちらでもかまいません。

- メールには、写真が撮られた年代と、写真撮影当時のあなたのご年齢、写真の説明や記憶に残る思い出などを、ご自由にお書き添えください。(説明文は写真1枚につき、140字程度)
- メールでの送信ができない方は、お手数ですが直接センターへお持ちください。(写真はこちらでスキャンニングして、すぐにお返しします)

○詳しくはホームページをご覧ください。

② 東山発! 活動まるごと情報誌『ヒガシガシ』の発刊



2015年の夏、46号を発行して以来発刊が止まっていた情報誌『ヒガシガシ』。来年2月に、開館50周年を迎えるに当たり、記念号として、47・48合併号と49・50合併号の2冊を発行します。今号は従来の『ヒガシガシ』の内容を受け継いだ仕上がりになっています。

③ ものづくりWSの開催

東山センターと言えば創造表現活動ですが、創造活動室を中心とした舞台表現と並んで、創造工作室では様々なものづくりが行われてきました。今回はその中でも人気のある、染色と陶芸、切り絵のワークショップを令和3年度中に開催する予定です。

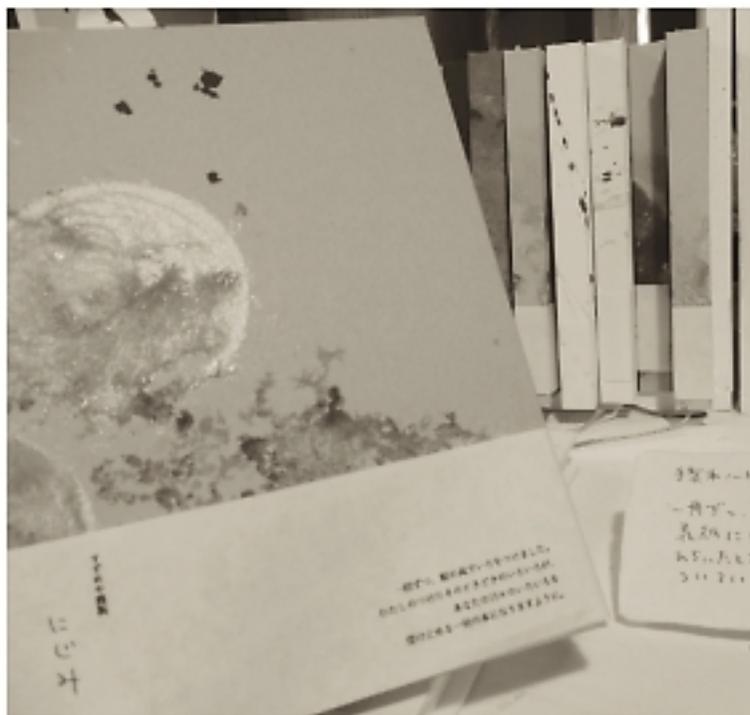
④ 東山ダンスフェスティバル Vol.3

2001年のリニューアル・オープン時に、記念事業として実施され、翌年も第2回として開催された、東山ダンスフェスティバル。あれから20年近くが経過して、今度は開館50周年記念事業の一環として第3回が行われます。コンテンポラリーダンスの祭典、ご期待ください! 2021年3月中旬に開催予定。

東山再発見

特集

あじき路地にて活動している製本家・村松佳奈さん。手製本でつくられるノートは、紙を半分に折るところから、表紙のデザインまですべてが手作り。同じデザインのものではなく、一点ものという特別感や、丁寧さの中に温もりが感じられ、どんなことを書こうか、自分の物語が始まる予感さえする、わくわくするようなノートが並んでいます。魅力的なノートの中に職人技が光る製本。製本家として日々歩みを進める村松さんに、お話を伺いました。



—お仕事は製本家ということで、珍しいですね。

そうですね。ノートの製本家は、全国的に見ても珍しいと思います。個人的に本の修復をする活動をしているとか、アトリエはあるけどノートではなく本などの製本をやっている人はいますが、ノートの製本で、しかも個人でお店持っているのは、ノート仲間だと、私ともう一人いるくらいだと思います。

—製本をはじめたきっかけを教えてください。

もともと本が好きだったんですね。芸術大学に通っていたので、ものづくりや、紙とか本もすごく好きで。製本との出会いは、大学に入ってからです。芸大生って自分の作品とかをポートフォリオにして持ち込んだりするからか、大学の最寄りの画材屋さんに、製本コーナーがあったんですよ。そこで、「そっか、製本ってできるんだね」と。私の学科にはなかったのですが、製本の授業があるらしいです。製本すること自体はとてもニッチですが、自分にとってはそうじゃなくて、身近にありました。

—大学時代は何を専攻していたのですか？

環境デザイン学科という建築系の学科だったので、創作系ではないんです。「暮らしを内包する何か」ということに触れてみたくて建築を専攻しました。でも建築って絶対モノにならないんですね。自分が建てることって、まず学生のうちではありえないし、大学出て就職しても何十年後…。そこまでの未来が自分であまり見えなくて、このまま作り続けられるのかで思い悩んでしまい、思い切って休学しました。手の中で何かをつくって、それでお金をもらえるくらいの実感が欲しくて、それで製本を初めてみたんです。そしたら、すんなり、結構好きだなと思って、これならやり続けられるという感触があり、休学していた2年間、ずーっと製本をしていました。

もちろん、休学中なのでフリーター状態だし、生活も大変だったりしましたが、やり続けて、それで1つ満足がいくものができて、これならお金をいただいても自分が恥ずかしくないかなど。自分なりに一生懸命つくって、クオリティもいいなど思えるものができた。その後大学に戻りましたが、二足のわらじで、つくる活動も続けながら残り2年の学生生活を過ごしました。卒業制作は、建築系だったので、ノート屋さんを建てたんですよ！ 実際そこでノートも売りました。リアルに人が入れる寸法でちゃんと店舗を建てたので、運べないし、展示期間が終わったらその場で壊しましたけど(笑)。

—大学での学びも活かすことができたのですか？

大学行ってよかったなと思いましたね。でも、いろいろ考えていて偉かったみたいに聞こえますが、全然そんなことなく、友達や先生など周りに助けられてできた部分もあります。みんなすごい人たちがばかりで、縁はすごくありがたかったです。

—子どものころから、芸術に興味はあったのですか？

工作が好きな子でした。あと、本はずっと読んでいました。物語派で、童話などをよく読んでいましたね。高校までは愛知県に居たのですが、車じゃないとどこにも行けないし、18歳くらいまでの年代が触れる娯楽って本当にないんですよ。パソコンがようやく普及して、インターネット黎明期みたいな時だったので、すごいオタクになるか、ヤンキーになるみたいな、それしか選択肢がなくて(笑)私は読むタイプになって、音楽や映画も行くんですけど、そうするとその文化的教養の薄さみたいなのがどんどんつらくなってきて、本や映画とかの話ができる友達が欲しかったんです。それで、18歳なりに考えて、文化＝京都だ！という感じで京都に出てきました。

—物語を書くお仕事は考えなかったのですか？

そうですね、書くことも好きで、ちょっとした詩や、ブログを書いたりもします。でも最初に建築系を選んだ理由でもある“物語や暮らしそのものを内装する装置”みたいなのがいいなと思いました。今、白紙のノートを作っているのも同じことをやっているつもりです。暮らしとか日々のことのアウトプッ

ト先が変わっただけという感じで、考えていることは変わっていないです。工作が好きというので、始めは実際に組み立てる建築の世界に行ったけど、もうすこし根っこのこの方向が大事だと感じて、製本がじっくり来たって感じですね。

—製本の活動について教えてください。

基本的に、一日中ノートを作っています。それはオーダーがあろうとなかろうとずっと作っています。やらないといけないという感じではなく、息をしているのと同じ感じです。それから、あじき路地でのお店の営業は、今は土日ですが、コロナ前までは、平日も営業していました。あとは、月に1回程度デパートの催事場で出店していて、大阪や東京などのデパートに行っていました。あじき路地に来て今年で3年目ですが、来る前は主に野外のイベントに出店していました。野外だと雨除けやほこり、汚れが付いたりして厳しい部分があったので、室内に移行していったという感じです。

—今年はコロナの影響で、日々も変わりましたよね。

変わりました、ずいぶん。コロナ前まではデパートに出店していたので、一応全国にお客さんがいるんですね。それで、コロナでお店を閉めたので通販に力を入れ始めたら、いろんなところから注文が来たんです。「あ、あのイベントのタネってこうやって育ったんだ」と分かってすごく嬉しかったですね。コロナでへこんでいたんですけど、意外と明るかったですね。



—つくっている時とそうでない時は切り替えていますか？

友達と遊ぶ約束ができたなら、いつものんびりやっているところを、少し頑張って作業時間を縮めて予定を空けるという感じで調整するようにしています。あとは、学生時代からやっているアルバイトに今も週3回通っていて、それは、お金のためというよりは、人間を取り戻すために行っています(笑)お化粧もちゃんとして、決まった時間に絶対行って、向こうで誰かとちゃんと喋って、そこで人間を取り戻して、また引きこもってノートをつくる...という感じで。定期的なアルバイト、しかも朝に入っているのですが、それが無いとたぶん、眠くなったら寝て、食べなくなったら食べて、あとは昼夜なくずっとつくる、という風になるので、「バイトがあってよかったー」と思いますね。

—つくる上でのポイントを教えてください。

決めすぎない、言いすぎないというのはすごく気にしていますね。ノートを白紙にしているのもそうですが、余白といいますが、「なんにでもなれるもの」がいいなど。というのも、あまりこの世に変わらないものってないと思っていて。別に、始めはレシピをメモしようと思ったやつが日記になってもいいし、お買い物メモになってもいいし。後で見返した時に「あの時こんなこと考えていたな」と、それくらいで良いので。あまり具象はしないというのと、あとは、同じデザインが一つもないこと。製本それ自体もめちゃくちゃニッチなので、手製本ってピンとこない人が多いんです。こうやってリアルに一個ずつ違うと「ノートってつくれるんだね」という感じで分かってもらえます。

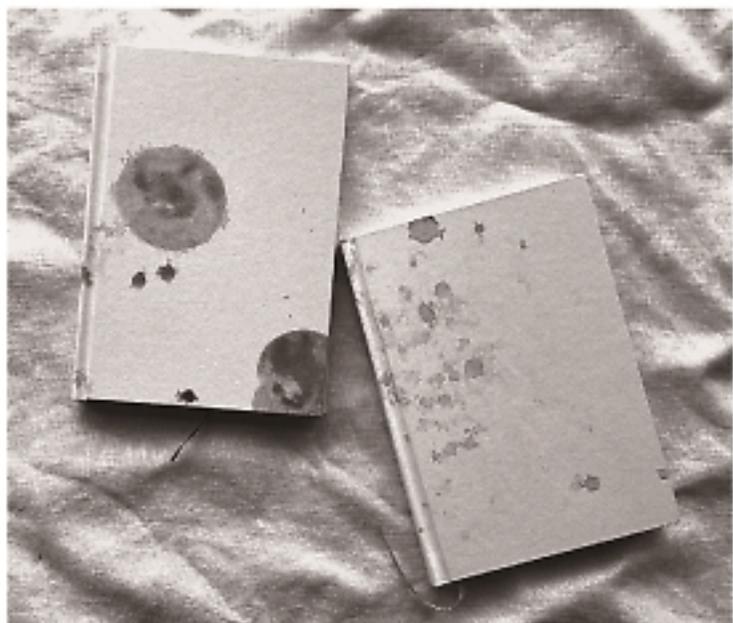
—自分の中でのこだわりなどはありますか？

個人作家でもあるので、接客とか、インターネットだったらブログやSNSで発信していることを、ご覧になった方が反応してくれると思うので、発信するうえでも、悪いとか、そうじゃないということをしてできるだけ言わないように気を付けています。大事なものって、人それぞれ小さいことからたくさんあるので、「ない」とか「嫌い」とかを言わないようにするし、自分もあんまり思わないように脳みそ変えているところはありますね。

—それは以前から心がけていることなのですか？

ちゃんとお金を稼げるようになってきた頃からです。つくったものでお金もらうってどういうことだろうというのを、すごく深く考えるようになって。働くのって大変じゃないですか？みんな一生懸命頑張って働いたお金をもらって、それを糧にして生きていくのなら、これはちゃんと考えないといけないぞと。どういうお金で自分が食べていくのか、やりたいことをやって生きていくのか。それでしっかり生きていくと決めたのだから、胸を張れないと恥ずかしいじゃないですか。はじめのうちは、これで食べていけるってあんまり信じてなかったというか、作り続けていたらいつの間にか...というところがあったけれど、もしかしたらこれで生きていけるかもしれないとなった時に、ちゃんと考えなきゃとなりましたね。

今こうやって、こだわりとか人としてのスタンスとかをしゃべっていますが、それは、これで生きていけそうだと、なった時に一生懸命考えてようやく言語化できたからです。整理して言葉にできるようになると「あ、そうだね」と自分で納得するんです。自分が何をやってきたか、自分が一番知っているから、下手にウソとか飾りになると納得できないですから。



—面白みは、どんなところですか？

つくったものが返ってくるという、すごく感動したことがありました。東京にデザインフェスタという、大きなアートフェスタがあるのですが、ノートを始めた頃の頃に「大舞台に行くぞ!」とすごく頑張って出店して、そこで初めて売ったノートがあって。10年後に東京のデパートに出店した時に、なんとその時に買った人が「使い終わったよ」とわざわざ持ってきてくれて!続けてきて良かったというか、本当にやってきたんだなど実感がわいて、その時ばかりは嬉しくてトイレで泣きましたね(笑)

—逆にづらいなと思うことはありますか？

ものづくりの諸先輩方が良かれと思っていろいろサポートしてくれるのが、しんどかった時期がありましたね。ハンデと言ってしまいますけど、女性であることで、強い言い方をすれば、なめられるということはすごくありました。やっていることがニッチだから、気にしてかわいがってくれているのは分かるけど、イマイチ噛み合わない。期待に応えないっていう気持ちもあったけど、やっぱり一人でやっていこうと開き直れるまでには、いろいろありました。だから逆に、自分が気の合うところや、気持ちいいところにいることで、安定して良いものができて、好きな人たちに囲まれていたら、その人たちや、お客さんも笑ってくれるし、それでいいかと思えるようになりました。

—今後の展望を教えてください。

宮沢賢治が好きなので、いずれは岩手に住んでみたいですね。彼の言葉で「心象風景」というのがあります。心の風景、それを大事にしたいというのが、建築とか内包するものに至ったきっかけで、今の根幹のうちの一つになっています。「あ、宮沢賢治に影響を受けているな」と大人になってから気づいた時があって。文化的教養が欲しい、なにかつくって生きていきたいと思って京都に来て、文化に触れて、ちゃんとアートができるようになり、ようやく13年目にして安定してきたこれから先、どうするのだろうと考えています。ノートばかり作って暮らしたい、という気持ちは持ち続けてます。

—もしも岩手に行ったら、活動に変化がありますかね。

変わるでしょうね。例えば、土地が広いから物理的に作業スペースも広がるだろうと思うと、大きい絵を描いてみるとか(笑)でもやること自体はずっと変わらないだろうなと思います。あとは車に乗れるようになるのかも大きいですよ。野望は、でかい白いトラックに、移動図書館みたいな感じで、ノートをいっぱい詰めているんなどころに売りに行きたいなというのがあります。

—とても素敵な夢ですね。

岩手に住むということもまだ具体的にはなっていませんが、たぶん、実現しそうな気はしています。

—実現するといいですね。ありがとうございました。

告知!

すずめや (手製本ノート、紙こもの)

HP: <https://www.suzumeya.net/>

Instagram: @suzumeyabooks





STAGE SUPPORT PLAN

ステージサポートプラン

10月～12月

東山青少年活動センターが自主公演の支援をします。初心者から経験者まで、いろんな人たちに東山にある創造活動室を利用してほしい。だから次のようなグループの公演を応援しています。

- ① First Trial (活動経験の浅い人たち)
- ② チャレンジ! (何か新しいことに挑戦しようという人たち)
- ③ 東山のおススメ! (京都でがんばって活動している人たち)

★詳しいことのお問い合わせは → 東山青少年活動センターへ

<http://www.ys-kyoto.org/higashiyama>

HPでも
ご覧頂けます。



■ 京都女子大学演劇部劇団 〈未定〉 『自宅で楽しむ演劇』

未定部員の自作短編脚本を無観客で上演。その様子を撮影し、YouTube限定公開にし、京女生限定で公開します。

☆動画公開期間
11月7日(土)～14日(土)

☆視聴料 無料

☆連絡先

Mail (劇団):

kwu.gekidan.mitei@gmail.com

※演劇公演の開場は開演時間の10分前です。



■ 京都市中学校演劇研究会 「中劇研第84回合同発表会」 (第36回京都市中学校総合文化祭演劇部門)

※8校の参加が予定されています。

(各校の上演時間は30分)

※常時換気を実施。公演後10分間の休憩時には、窓を開けて換気を行ないます。

11/14 (土) 12:50～17:20

11/15 (日) 10:30～12:20

入場無料(入場は保護者に限定)

連絡先: 京都市中学校演劇研究会
事務局 (立命館中学校)

中劇研では年に2回(春と秋)、京都市の中学校演劇部で集まって合同発表会を行っています。今年度はこのような状況の中、春の発表会を中止せざるを得なくなりました。秋の発表会は観客制限はありますが、中学生たちにとっての貴重な発表の機会ができたことを嬉しく思います。たくさんの方に見て頂くことはかないませんが、各校思い切り演じてくれることと思います。



■ 第三劇場秋季企画
猫も杓子も創作短編集
『あなたのいる部屋』

公演参加者11名、全員が脚本家！
「家族愛」をテーマに7つの短編演劇
を映像でお届けします。
脚本による「家族愛」の差や役者の
演じ分けにもご注目ください！

☆動画公開日 11/14 (土)

☆視聴料

無料カンパ制
(noteにて有料記事販売)

☆連絡先

Mail :
sangeki303@yahoo.co.jp
TwitterDM : @sangeki303

※演劇公演の開場は開演時間の30分前です。

■ イーアイオー
『タクシーを待ちながら』

ある島でのお話し。いろいろなものが
流れていく。こぼれ落ちていった行く
先は？
※合同短編上演会として他チームと
の合同で上演予定

12/5(土) 17:00

入場料 後払い自由価格設定
500円から (投げ銭)

12/6(日)

※無観客撮影上演
(後日配信)



HIGASHIYAMA STAGE SUPPORT PLAN YU'Z

表現活動応援します🔥

- 3ヶ月先までの部屋を(最大45時間)無料で使用できます。
- ▼対象は、京都市に在住もしくは、通学・通勤している、概ね13~30歳のメンバーが中心であること。
- ▼発表や公演の日時・場所が決定しているグループ。
*詳しくは東山青少年活動センターへお問い合わせください。

公演・発表が決まった！
まず、担当者にご相談ください。

応募

決定

予約

申請書の内容

※センター指定の用紙に
記入していただきます。

- 代表者の氏名、連絡先
- 公演日、公演場所など
- 団体、ユニットの簡単なプロフィール
- 今回の公演や発表で実現したいことなど
- 利用希望日

Higashiyama Youth

東山センターを利用している青少年にインタビュー

今回お話を伺ったのは、「同志社ヒーローショー同好会」会長の石井陽大さん。子どもたちの笑顔のため、カッコいいヒーローを目指し活動中!



—団体のプロフィールを教えてください。

幼稚園や小学校、児童館に行ってヒーローショーを行うボランティアサークルです。地域のお祭りなどにも行き、地域の人との交流も目的としています。主な活動範囲は、京都・大阪・奈良あたりで、依頼があれば行きます。活動を始めて約10年、現在は50人ぐらいのメンバーで活動しています。

—石井さんが活動しようと思ったきっかけは?

小さい頃から仮面ライダーが好きで、サークルには趣味の話ができる人もいますし、演技や殺陣、脚本や衣装づくりが自分たちでできることや、ヒーローを「演じてみる」というのが新鮮に感じて、おもしろそうだなと思いました。また、子どもたちが喜んでくれるというところで、自分の好きなことで他人を喜ばせることができることに魅力を感じました。

—具体的にどんな活動をしているのですか?

第一が、ショーをすることです。そのショーをするために、脚本を書く作業と、脚本を演じるための練習が、ショー以外の主な活動です。あとは、数年に一度、アーマーやメットのアップデートを行います。型番を作れる人がモデリングをして、みんなで制作します。今作成中で、たぶん来年の4月頃に新しいものになります。

—リニューアルが楽しみですね。脚本を書く人や役割は決まっているのですか?

演者もそうですが、脚本を書くのも立候補制で決めています。いくつか脚本をあげてもらい、その中で一番いいのを月

ごとに決めて、ショーをします。「タナレンジャー」という基本レンジャーが5人いて、敵役のボスであるダークネスとその部下が何名か登場する構成で、基本的なプロットは変えずに、脚本によって新しい戦士やキャラクターが登場しますが、最後はタナレンジャーが勝つという展開です。演者や裏方を含め、自分たちで全部作り上げるので、毎回役割も変わります。

—去年はどのくらいショーを開催したのですか?

文化祭などの時期を除き、月に2~3本くらい依頼がありました。今年はまだ実施できていなくて、11月にオンラインという形で今年度初めてのショーをします。練習も大学の会議室を借りていましたが、今は使える枠も限られているので、青少年活動センターを使いながら練習しています。最近になって、活動自粛も緩和されてショーの依頼を受けることはできるようになりました。外部とかかわりを持つことが認められたということが、一番大きいですね。

—石井さんにとって、活動時間はどんな時間ですか?

新型コロナウイルス感染症が活発になる前は、みんなと過ごす時間があって、自由に活動ができるし、活動後にみんなでご飯も行けたし、「ホームスペース」みたいな感じだったけど、コロナウイルスが蔓延して、自由に集まれなくなってからは、心が安らぐような時間です。大学に活動の申請をして許可をもらって、オフィシャルでみんなに会えるのは嬉しいです。もちろん感染の不安はありますが、それを多少は和らげるような場所になっているなど感じます。活動の時間がもっと大切なものになってきている気がします。

—ヒーローショーをしている時は、どう感じていますか?

自分が子どもたちの理想の姿を演じる、というプレッシャーもありますが、それ以上に、こう見せたいという意欲や、心を揺さぶりたいというやる気が出ます。その思いを、みんな同じように持ってくれていると、ショーですごく熱いアドリブとかできたりして、そこがむちゃくちゃ楽しいですね。「リハではやらなかったけど、本番でこうしたら熱くなるんじゃないか」とか「これでうまくいったから、次の本番でもやってみよう」みたいに、形を作るのにすごく濃密な時間もあります。かっこよ

く見せるためにはどうしたらいいかと考えるのは勉強になるし、「いいものになれる」ということは常に考えていますね。
—ヒーローについて考えたことは、普段の生活につながっていますか？

恥ずかしくないように振舞いたいと思います。道で困っている人がいたら、例えば、チャリンコ倒している人がいたら一緒に直したりとかして、助けています。普段はへらへらしているから、何こいつって思われたりもしますけど(笑)

—どんなところにやりがいを感じますか？

子どもたちのためというのが一番大きいですね。ボランティアでショーをやっているので、観客がショーを見て興奮したり、楽しいと思えるような公演をすることが大切なのかなと思っています。ショーの中で、タナレンジャーがダークネスにやられて、ポロボロになった時に、観客に「頑張れ」と言ってもらってタナレンジャーが元気になるという場面が必ずあるのですが、そこで子どもたちが必死で応援してくれるのが、すごく嬉しいです。また、「この間のショーも行きました」などと言ってもらえたりすると、モチベーションもすごくあがります。

—今後の展望を教えてください。

サークルとしては、今後もずっと活動を続けること。理想は、小さい頃にタナレンジャーを見た親が、「自分も小さいと



きに見たよ」と子どもと一緒にタナレンジャーを見に来てくれるというのが、一番かっこいいんじゃないかなと思います。個人としては、脚本の作り方や衣装づくりの技術を後輩に継承していくことです。やはり技術がないと何もできないので、そういう部分のモチベーションもみんなに持ってみたいと思います。あとは、今年はいよいよ活動ができるようになってきたので、ショーの依頼をお待ちしております！



告知!

同志社クローバー祭 (10/31 ~ 11/1: オンライン) に出演します。

詳しくはHP (<https://cloverfes.com/>) をチェック!

ショーの依頼を絶賛受付中!

HPよりお問い合わせください。

【HP】 <https://d-heroshow.org/>

【Twitter】 @D_heroshow



●イラスト 長谷川千紗【かもさん同盟】

ヒガシヤマ

Q&A

Q「コロナじゃなかったら、やりたかったことは？」

2020年は、新型コロナウイルスの流行で大変な年になりました。自粛期間が長く続きましたが、いつもだったらやっていること・やりたいことがきっとあるはず。皆さんのやりたいことを聞いてみました!



A. USJに行きたい。 P.N コースター

—USJいいですね! ちなみに私は、ジュラシック・パーク・ザ・ライドが好きです。

A. ライブと野外フェス沢山行って、泊まりがけで海に行きたかった。 P.N ぐるぐるパーマン

—ライブ!! 野外フェス!! 最っ高ですね!!
しかも泊まりで海!! 私も行きたいなあ〜...

A. サークル活動がしたいです。 P.N 千

—いいですね! サークル活動、なんか青春してる感じで。羨ましいです...

A. 京都歩いて写真撮影 P.N こうたろう

—オススメは、南禅寺水路閣と八坂庚申堂です!!

A. インド旅行に行きたい! 本場のカレー食べたい!

P.N よっちゃん

—本場のカレー私も食べてみたいです!!



A. お神楽いっぱい舞いたかった。 P.N 無記名

—お神楽舞えるの凄いです!!
覚えること多くて大変ですね。

A. スポーツ観戦がしたかった。 P.N まさやねん

—私も毎年甲子園に観戦しに行っていました。
今年は、残念ですね。来年に期待です!

A. スイカ割り P.N (^ω^)

—スイカ割り楽しいですね。全然違う場所叩かないように周りの人の声を聞かなければ!!

A. 全国のゆるキャラと友達になりたい (会いに行きたい) P.N おたえる

—全国のゆるキャラと友達! おたえるならできる!
頑張って、知らんけど笑



●編集 大島 直敬 (京都芸術大学付属高校2年)

●イラスト 稲葉 美羽 (京都女子大学3回生)

伊藤 麻衣 (京都女子大学3回生)

阿武 麻衣 (鴨沂高校2年)

植田 まゆみ (華頂女子高校2年)

workshop

ワークショップの読み

●概要

東山アートスペース

知的な障がいのある青少年のアトリエ活動「東山アートスペース」の単発プログラムを8月9日と8月23日に実施しました。今回は、参画したボランティアのみなさんからの気づきや感想をふまえた報告です。



プログラム内容は年間スケジュールや季節、流行、また参加者の興味や難易度を考えながら、ナビゲーターとボランティアでアイデアを出し合い、企画しています。

今回は手洗い用のポンプ式容器を土台にして、アマビエを作りました。アマビエとは、疫病をおさめると言われている日本の妖怪です。

このプログラムには、メンバーが健康でいられるように、家でも使えて手洗いがより楽しくなるように、というナビゲーターとボランティアの想いが込められています。

今年初めてのアートスペースということでボランティアも参加者も少し緊張気味でした。最初は、なかなかコミュニケーションが取りづらく、思っていたような感じで制作がスタートしなかったのですが、ボランティアが作った試作をみせたり、「絵の具使う?」とか「この色いいね!」と提案したり、感想を伝えたりすることで徐々に意思疎通が取れるようになりました。参加者が興味を持っているものがわかるとボランティアはそれをどんどんサポートして作品制作は進んでいきました。

後半はアマビエづくりだけでなく、絵を描きたい人は絵を描き、粘土で造形する人もいたり、他の人とおしゃべりを楽しんだり、それぞれの創作もしながら、ボランティアと一緒にアートスペースという場を楽しんでいました。



ヒガシ
VOL. 47/48
2020 AUTUMN

●編集・発行 京都市東山青少年活動センター（指定管理者 公益財団法人京都市ユースサービス協会）

公益財団法人京都市ユースサービス協会とは・・・

「若い人たちの社会参加の機会を広げ、責任ある若き市民に成長できるよう、そのために必要な自主的な活動を支援していこう」というユースサービスの考え方をもとに、青少年の持つパワーが社会の中で活かされるためのサポートをしています。

